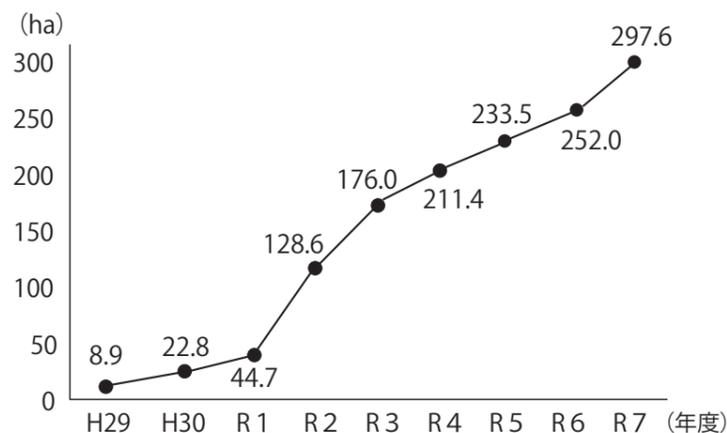


村内水稲作付け面積



令和7年水稲作付け

主食用米	118.0ha (加工用13.5ha、輸出米4.8ha、備蓄米1.4haを含む)
WCS用米	59.4ha (WCS=稲発酵粗飼料)
飼料用米	120.0ha
酒米	0.2ha
合計	297.6ha (19地区・36経営体) 令和7年6月17日現在

水稲作付け 東日本大震災以降の経緯

- 平成23年 東日本大震災発災 作付けを見送り 全村避難
- 平成23年 除染と農地の再生に向けた試験作付け・実証実験が始まる
- 平成28年 村内各地で水稲実証栽培を実施
- 平成29年 19行政区で避難指示解除 米の作付けを再開 全量全袋検査を実施し米の出荷を再開
- 令和元年 農地中間管理事業を活用した農地の集積が始まる
- 令和5年 長泥地区の特定復興再生拠点区域等で避難指示解除
- 令和7年 長泥地区の営農再開第1号となる田植えが行われる



Challenge 広がる農地

営農を再開する水田が年々拡大しています。写真は、平成29年に、避難指示解除後初の田植えが行われた須萱地区の水田。同年8.9haから再開した水稲の作付け面積は、今年、食用米・飼料用米等を合わせて約300haとなりました。この水田では昨年から、飯館村振興公社が担い手となり、食用米と飼料用米を栽培しています。一步一步再生を続ける農地の姿は、担い手の皆さんの努力の軌跡そのものです。

美しい村の水田風景
今年も拡大しています

水稲の作付け面積が拡大しています。

昨年実績では18地区40経営体・約252.0ヘクタールの作付けでしたが、今年は、6月17日時点のとりまとめで、19地区36経営体・約297.6ヘクタールとなり、作付け面積は約1.2倍に拡大する見込みです。

品種は、例年のように「里山のつぶ」「天のつぶ」の他、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「ヒメノモチ」「こがねもち」「あぶくまもち」、飼料用米の「ふくひびき」と、多品種にわたっています。

東日本大震災の原発事故の影響で、村の全域が計画的避難区域に指定された平成23年4月、飯館村議会の特別委員会は、原発事故の影響を鑑み「生産者としてのモラルに反する」と農産物の作付け見送りを決定。以

来、19行政区で避難指示が解除される平成29年3月まで、6年間にわたり出荷等を目的とした水稲の作付けは行われませんでした。

震災前の水稲作付け面積は、715.7ヘクタール。表土をはぎ取り覆土する除染で、手をかけてきた肥沃な土は取り除かれ、米づくりはマイナスからのスタートを余儀なくされました。

避難指示解除から間もない平成29年5月に最初の田植えを行った高橋松さん(二枚橋・須萱)は「震災前の村に歩でも戻りたいという気持ちでやるんだ。飯館の米はおいしいねと言ってももらえるよう、時間をかけて土地を戻していくよ」と笑顔で田を見つめてました。

それから8年。年々広がる水田風景の美しさは、村の誇り。そして、ここに至るまでの道のりと、多くの人の努力を思い返さずにはいられません。